

第52回

HITACHI Inspire the Next HITACHI ASIA VIETNAM

日立製作所とベトナムの関わりは、カントー火力発電所に火力発電設備一式を納入した1972年にまで遡ります。

その後、1994年にはホーチミン市に駐在事務所が設立され、1996年にハノイ市にも駐在事務所が設立されました。その後、日立グループとしてベトナムへの進出が進み、現在ではベトナム各地で7法人、17拠点が展開されています。今回は、ベトナムの日立グループの統括及び社会イノベーション事業を行うことを目的として2013年5月にホーチミン市に設立された日立アジア(ベトナム)社の安藤社長にお話をお伺いしてきました。

●事業内容

日立グループの統括・社会イノベーション事業

●Hitachi Asia (Vietnam) Co.,Ltd

The Landmark, Room 8-9-10A, 4th Floor, 5B Ton Duc Thang Street, Dist 1, HCMC, Vietnam



一進出の経緯についてお聞かせください。

日立製作所とベトナムの関わりは古く、40年以上前の1972年にカントー発電所に33MWの火力発電所設備一式を納入したことが始まりでした。その後も1977年と1979年にはベトナム機械輸入公団に分電盤用遮断機と専用モーター950台を納入するなど継続的にビジネスを展開してきましたが、特に拠点などはありませんでした。

しかし、1990年代に入りますと日系企業の進出も少しずつ見られるようになり、現地でのオフィスビルや工業団地の建設も盛んに行われるようになりました。そんな中で、家電や空調設備に関する需要も増加するようになり、ビジネスチャンスが拡大してきたこともあり、1994年ホーチミン市に駐在事務所を設立しました。

更に1997年には官庁系ビジネス、電力やインフラ事業を強化するために、ハノイ市にも駐在事務所を設立することになりました。



事務所の様子

その後は、日立グループの現地法人が進出することになりました。

下記はベトナムで事業活動を行っている主な拠点です。

Hitachi Asia (Vietnam) Co., Ltd.

業務内容:電力システム、交通システム、水処理システム、都市整備関連製品の販売およびマーケティング

Hitachi Cable Vietnam Co., Ltd.

業務内容:電子機器用電線及び配線部品の製造及び販売

Hitachi Home Electronics Vietnam Co., Ltd.

業務内容:家電およびマルチメディア製品の販売とマーケティング

Hitachi Plant Technologies (Vietnam) Co.,Ltd.

業務内容:産業、空調システム向け設計、調達、施工

Hitachi Systems Vietnam Company Ltd.

業務内容:ERPパッケージ製品の販売・導入サービス

Hitachi Transport System (Vietnam) Co., Ltd.

業務内容:輸出入貨物のフォワーディング事業、保管や配送等

一日立アジア(ベトナム)社について教えていただけますか？

先ほども申し上げましたが、日立製作所は、

40年以上前からベトナムとのビジネス関係を構築しておりましたが、1990年以降ベトナムの経済発展と共に、様々なビジネスチャンスが生まれてきており、それに対応すべく日立グループでも多くの現地法人がベトナムへ進出しました。そのような中、2013年6月には、ベトナム発の都市鉄道となるホーチミン市都市鉄道建設事業(パンタインソースオイティエン間<1号線>)の、車両17編成(51両)、信号システム、列車無線などの通信システム、受変電設備、ホームドア、券売機、改札機、車庫設備など設備一式の納入に関して総額約370億円となる受注契約をホーチミン市人民委員会鉄道局と締結しました。



ホーチミン市都市鉄道1号線向け車両イメージ



ホーチミン都市鉄道1号線調印式

また、2014年には、ベトナム最大手のIT企業であるFPT Software社が、日立製作所の技術支援のもと、日立製作所が日本の大学向けに提供している学務情報システム『UNIPROVE/AS』をベトナムの大学向けに対応させた『Eduprove』を開発し、ベトナムの大学向けに販売することになりました。このシステムは、学生の入試から卒業までの情報管理や教職員の事務支援など、大学経営を包括的に支援するシステムであり、ベトナムにおける大学教育環境の高度化に貢献することが期待されています。

このように、日立グループとベトナムとの結びつきがより強固になる中で、ベトナムに進出している日立グループ各社の統括と、電力や交通などのインフラとITを融合させた社会イノベーション事業の拡大を図るために、2013年5月に日立アジア(ベトナム)社(Hitachi Asia (Vietnam) Co.,Ltd.)を設立することとなりました。

一事業内容について教えてくださいませんか？

日立アジア(ベトナム)社の設立目的には大きく分けて2つあります。ひとつは、ベトナムにおける日立グループの統括ということがあります。

ベトナムへ進出している日立グループの各企業は、それぞれ独立して事業を行っています。日立グループとしてベトナムの発展にどのように貢献できるかという観点から、グループの活動を纏めていく立場になります。

ベトナムの経済発展にともない、今後社会インフラの整備が進められることが、予測されますので、その中で日立グループとして、社会インフラとITを組み合わせた社会イノベーション事業に取り組んでいきたいと考えています。

もう一つは、ベトナムの電力システム、交通システム、水処理システム都市整備関連製品の販売及び、マーケティングとなっています。

具体的に申し上げますと、2013年に正式に受注しましたホーチミン市の都市鉄道1号線向け設備の納入や、2014年3月には、ベトナム高

速道路公社様から日立・東芝・伊藤忠商事が共同で受注しました、電子料金収受システム(ETC)、交通管制システム、設備監視システムなどの高速道路交通システム(ITS)一式の納入などがございます。

今後は、これ以外にも電力、水処理、都市計画などの分野で積極的にベトナム社会インフラの発展に貢献できるソリューションを提供していきたいと考えています。

一HITACHIグループとしての今後の展開について教えてくださいませんか？

ベトナムは2020年までの工業国化を目指していますが、その過程において社会インフラ、ITインフラ整備の需要が高まることが予測され、日立グループとしてこのベトナムの工業化に伴うインフラ整備に様々な面で貢献していきたいと考えています。

ベトナムでは『HITACHI』というブランドはどちらかというと、冷蔵庫、テレビ、洗濯機といった家電のイメージで認識されているかと思いますが、今後は、ハードの販売だけではなく、社会イノベーション事業のソリューション提供にも力を入れていきたいと考えており、ベトナムの皆様にも家電だけではなく、HITACHIには、様々な事業があることを知って頂ければと考えています。



冷蔵庫 R-M700GPGV2X

一ベトナム人スタッフに対する評価をお聞かせください。

現在ホーチミン市とハノイ市にオフィスがあり、従業員数は合わせて20名ほどですが、皆非常に真面目で熱心だと感じています。こちらが明確に指示をすれば指示されたことは勿論、自分で考えて行動している部分も見られ、今後は楽しみです。

特に弊社の場合、昨年法人化されたばかりでこれから様々な事業を展開していくということで、社員のモチベーションも非常に高いと感じています。

また、これは日立アジアではなく、グループ企業の日立ケーブル(ベトナム)社の例ですが、社

員のご両親を会社にご招待して、会社がベトナムでどのような事業を行っているのか、ベトナム社会に、どのように貢献しているのかといった説明をすると、ご両親が非常に安心して喜んで頂き、社員も会社に対する誇りが持てるようになり、非常によい効果があったとのことで、今後は日立グループとしても、同様に社員が会社に誇りを持って仕事ができるような取り組みを行っていきたくと考えています。

一8月にハノイ市で開催されるVIETNAM MANUFACTURING EXPO 2014へ出展されるとのことですが、展示会への抱負・期待などを教えてください。

VIETNAM MANUFACTURING EXPOへの出展は去年に引き続き2回目になります。展示会出展の目的は、日立グループ企業の製品や技術の紹介はもちろんですが、日立グループベトナムでの認知度を更に向上させたいと考えております。また、現地日系企業様の現地調達化に貢献し、また、今後ベトナムへ進出を検討される企業様の現地の受け皿になりたいと考えています。

今回の展示会では、日立グループの中から日立アジア(ベトナム)社と日立ケーブル(ベトナム)社が、設備管理システム、在庫分析システム、コンプレッサー、ワイヤー、ケーブルなどを展示する予定です。

私たちは、ベトナムでの市場やニーズに関しより理解を深めていきたいと考えておりますので、一人でも多くの皆様からのお声をお伺いできればと考えております。

是非、展示会では弊社ブースにもお気軽にお立ち寄りください。

一ありがとうございました。



日立ケーブル(ベトナム)社の製品